

【七月の言葉（令和四年）】

## 〃縁起〃

すべてのものは、つながり合っている

縁起と言えば「縁起が良い・悪い」という言葉を思い出す人が多いと思います。これは、仏教の「縁起」という言葉から生まれたものですが、本来の意味とは全く違います。

縁起とは、文字通り『縁よって』『起おこっている』こと』という意味です。もう少し詳しくいうと、縁起とは「因縁いんねん生起しょうき」を省略したもので、全てのものは因縁によって成り立っているということです。因縁の「因」とは直接原因、「縁」とは間接原因のことです。たとえば、花がここに咲いているとします。花を果（結果）とすると、因は種です。しかし、種があるだけでは花は咲きません。水、土、光などさまざまな条件がそろわなければ咲きません。これが「縁」です。様々な因縁によって、はじめてきれいな花を咲かせているのです。すべてのものは、お互いに因となり縁となつて、つながり合っているのです。このようなあり方を縁起というのです。

お釈迦さまの教えには「すべてのものは、お互いに助け合いながら存在している」ということが、その根底にあります。

